



トマト・キュウリ管理情報

平成27年7月8日
J A松任・石川農林

1 アザミウマ対策

野外でのアザミウマ類の誘殺数は近3ヶ年で最も多く、現在、ハウス内で多発しているケースも見られます。春作で発生が認められたハウスは、抑制作に備えて対策を徹底しましょう！

【ハウス蒸し込み手順】

- (1) 栽培終了後、作物は誘引したまま抜根する。
- (2) ハウス内の雑草は刈り払っておく（ハウス周辺の除草も徹底する）。
- (3) 塩ビ管や電子機器など熱に弱いものは極力外に持ち出す。
- (4) ハウスを密閉して5日間程度放置する。
※アザミウマ類の死滅温度は46℃で3時間
- (5) ハウスを開放し、残さをハウス外に持ち出し適切に処分する。

アザミウマ対策のポイント！

①施設内に入れない（防虫ネット）、②増やさない（薬剤防除）、③作付前の密度低下（蒸し込み）

2 高温・裂果対策（夏秋・抑制トマト）

☆高温に関する異常天候早期警戒情報（7/6 新潟気象台）

7月11日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高い（+2.2℃以上）確率が30%以上

- (1) 遮光（最高気温が30℃を下回る9月上旬まで実施）
 - ・遮光率30%程度の遮光ネットをハウス外側に設置。※内側設置よりも遮熱効果あり
 - ・遮光用塗布剤の利用。※ハウスビニルへのクレフノン30～50倍（木工用ボンド70～100倍加用）やクールコート8倍散布など
- (2) やや強めの草勢管理
 - ・幼果期（4cm前後）以降、果実肩部に強日射が当たらないよう葉で日除けする。
 - ・3段階開花期以降は、草勢を落とさないよう摘果やこまめな追肥を心がける。
- (3) かん水
 - ・追肥開始以降は、土壌水分の急変を防ぐためかん水は「少量多回数」とする。
 - ・高温乾燥時は、午前中に通路散水しハウス内湿度を保つ（夕方には乾く程度）。
※高温乾燥で葉が巻かないようなかん水（湿度）管理を心がける。
- (4) 妻面換気
 - ・ビニル張り替え時など、適宜、妻窓の設置を進めましょう。
- (5) 地温上昇防止
 - ・白黒Wマルチやタイベック、敷きわら、モミガラの利用。
- (6) 尻腐果対策
 - ・定期的に成長点～開花花房、幼果を中心にカルシウム剤の葉面散布。

3 用水使用ほ場のかん水チューブについて

☆孔が大きく（φ0.6～0.8mm）目詰まりしにくいタイプのかん水チューブを使用する。

※抑制作に向けてチューブの取替えを予定される方は、J Aまたは石川農林にご相談下さい。